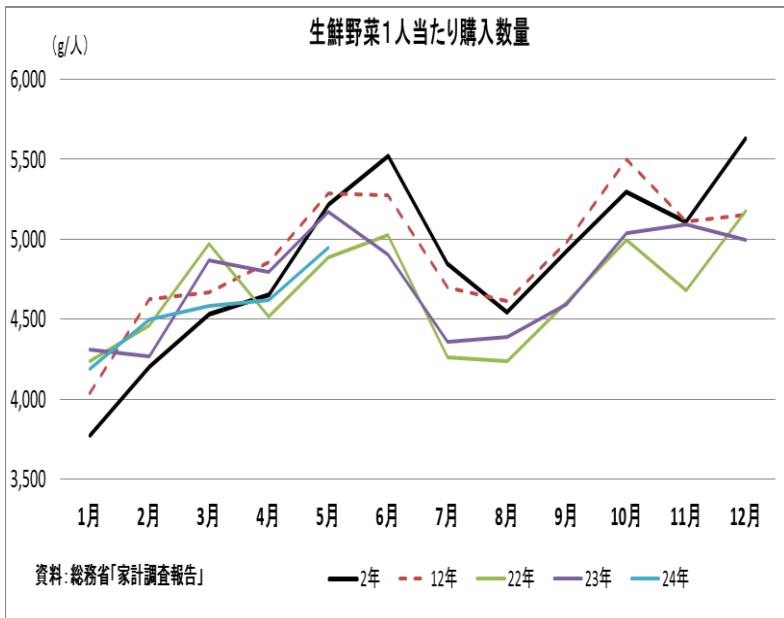


## 野菜の需給・価格をめぐる状況

## 1 生鮮野菜の購入数量の推移

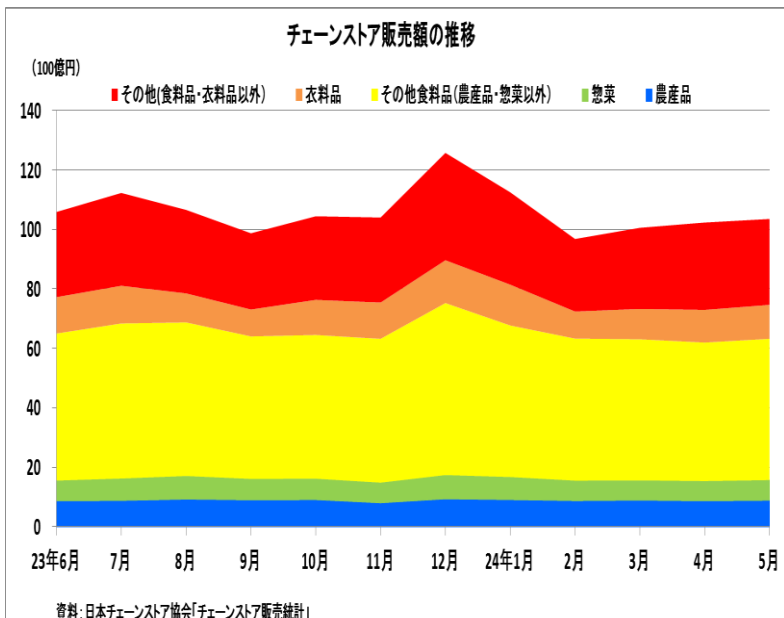


生鮮野菜の1人当たり購入数量は、平成23年は、生育が良く、野菜の価格が概ね前年を下回ったことから、2月、3月、6月、9月及び12月を除き、前年を上回って推移した。3月については、価格は前年を下回ったものの、震災による需要の減退から、購入数量は前年を下回った。

平成24年は、平成23年12月からの低温・曇天の影響により総体的に高値となったことから、2月を除いて前年を下回って推移している。2月について、前年が低温・少雨の影響で高く、購入数量が少なかったことから、前年を上回った。

## 2 チェーンストアの販売動向

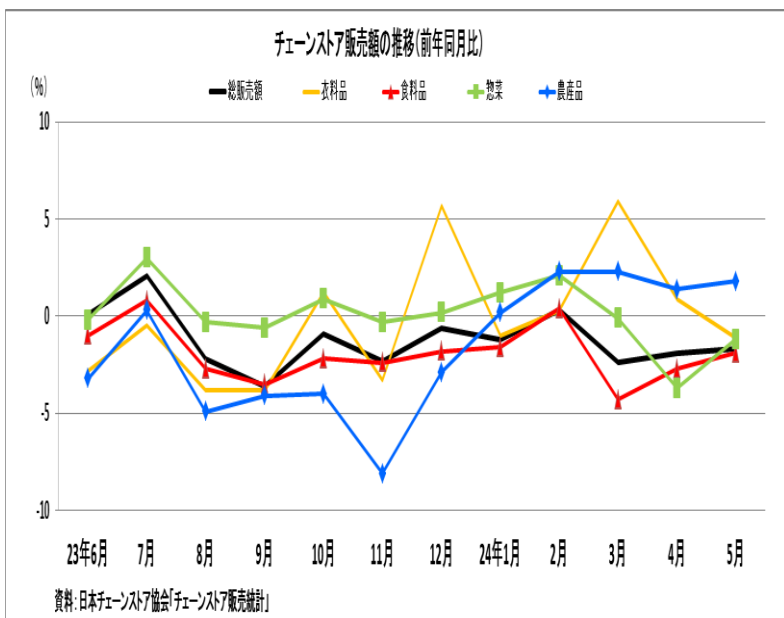
### (1) 販売額の推移



総販売額の最低額は、2月の9,679億円、最高額は、12月の1兆2,574億円であった。

そのうち、惣菜の最低額は、4月の663億円、最高額は、12月の798億円であった。また、農産品の最低額は、11月の809億円、最高額は、12月の942億円であった。

### (2) 販売額の前年同月比

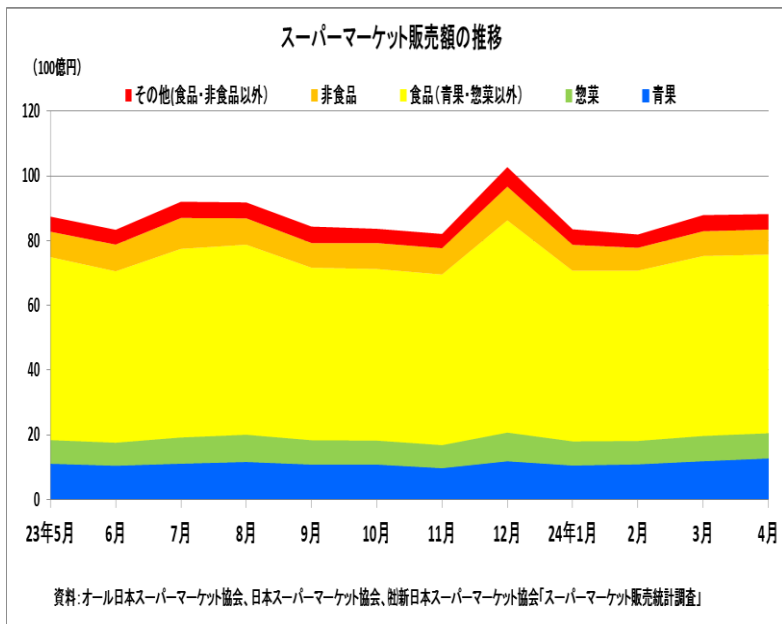


総販売額は、平成23年6月以降、7月と2月を除き、前年を下回って推移した。

そのうち、惣菜は、概ね前年並みで推移した。農産品は、6月以降、7月を除き、小売価格が低下したこともあり、前年を下回って推移していたが、1月以降は、低温等の影響により小売価格が上昇したため、前年を上回って推移した。

### 3 スーパーマーケットの販売動向

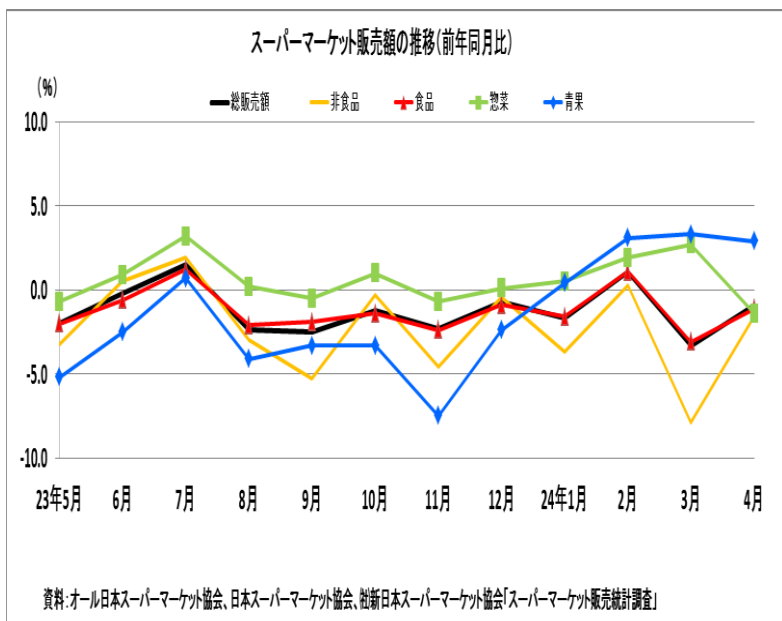
#### (1) 販売額の推移



総販売額の最低額は、2月の8,191億円、最高額は、12月の1兆273億円であった。

惣菜の最低額は、6月の699億円、最高額は、12月の874億円であった。また、青果の最低額は、11月の985億円、最高額は、12月の1,286億円であった。

#### (2) 販売額の前年同月比

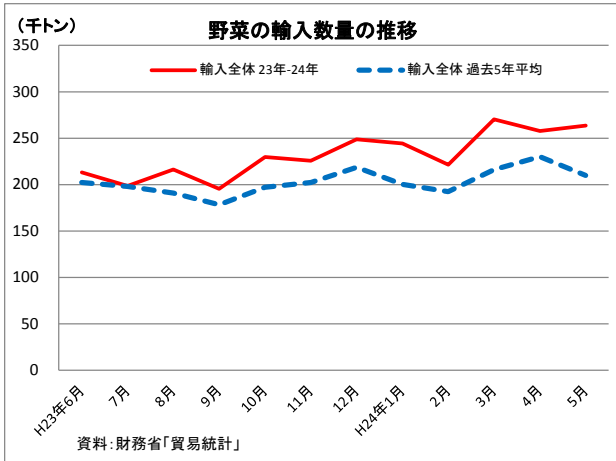


総販売額は、平成23年5月以降、チェーンストアと同様、7月と2月を除き、前年を下回って推移した。惣菜は、概ね前年並みで推移した。

青果は、5月以降、7月を除き、小売価格が低下したこともあり、前年を下回って推移していたが、1月以降は、低温等の影響により小売価格が上昇したため、前年を上回って推移した。

## 4 野菜の輸入動向

### (1) 野菜全体の輸入数量

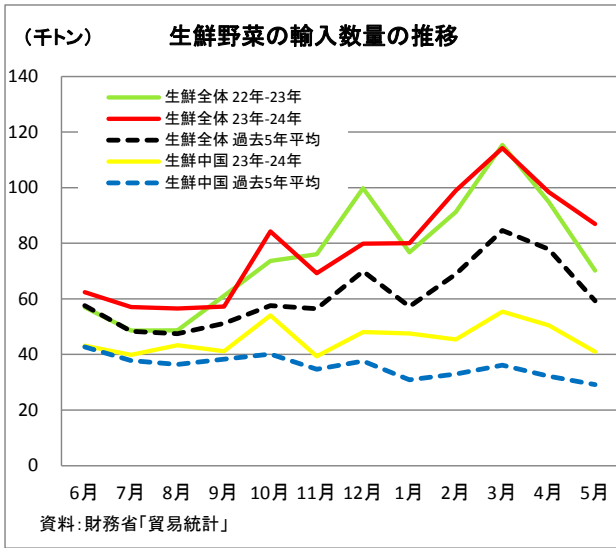


野菜の輸入数量は、平成23年7月を除いて過去5年平均を上回った。

1月以降は、低温や干ばつ等による国産野菜の供給不足により、葉物野菜を中心として輸入野菜の需要が高まった。

3月以降は、250千トンを超える輸入数量となっている。

### (2) 生鮮野菜の輸入数量

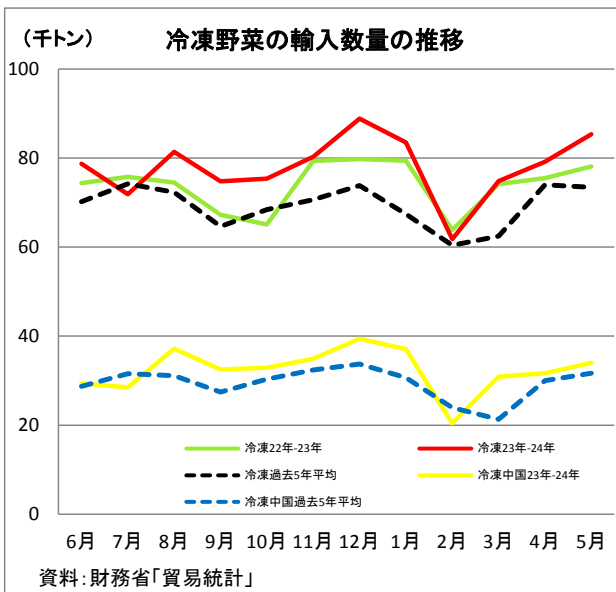


生鮮野菜の輸入数量は、全期間を通じて過去5年平均を上回った。

特に平成23年12月以降は、低温や干ばつ等によりキャベツや結球レタスを中心とした国産葉茎菜類の出回りが少なくなったことから、過去5年平均を大きく上回った。

天候不順による生鮮野菜の価格高騰や低価格志向の強まり等から、中国産への需要が高まっており、中国産の輸入数量は、全ての期間を通じて過去5年平均を上回り、特に12月以降は、過去5年平均を大幅に上回った。

### (3) 冷凍野菜の輸入数量



冷凍野菜の輸入数量は、平成23年7月を除き過去5年平均を上回っており、また、7月と2月を除き前年を上回った。

2月の輸入量が前月と比べて大きく減少したのは、平成23年8月から平成24年1月まで輸入量が大きく増加したことから、在庫が過剰となっていたために、在庫調整がなされたのではないかと推察される。

中国産の輸入数量は、7月と2月を除き過去5年平均を上回った。これは、生鮮野菜と同様に廉価な中国産への需要が高いことによると思われる。

(4) 主要品目の輸入数量(平成23年)

生鮮野菜 (トン)	
①たまねぎ	373,123
②かぼちゃ	114,574
③にんじん・かぶ	80,059
④ねぎ	52,479
⑤ごぼう	45,569

冷凍野菜(トン)	
①ばれいしょ	361,202
②えだまめ	70,222
③スイートコーン	46,858
④さといも	38,781
⑤ほうれんそう等	33,443

資料:財務省「貿易統計」

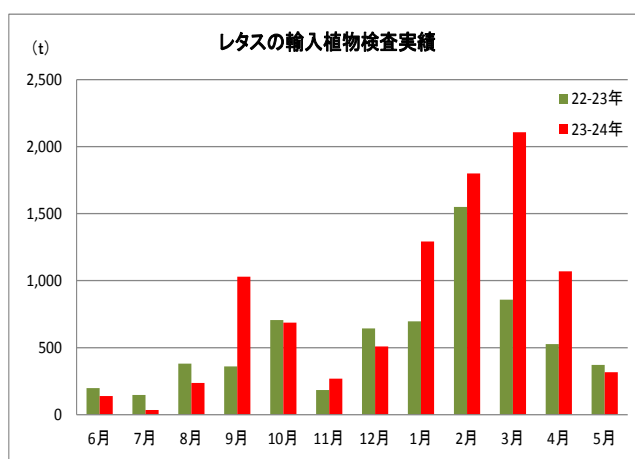
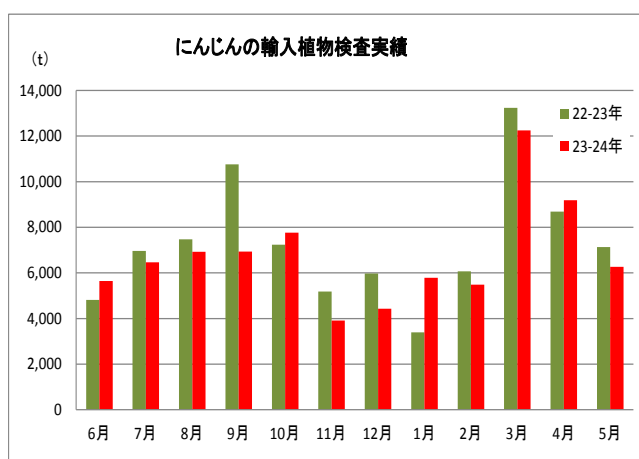
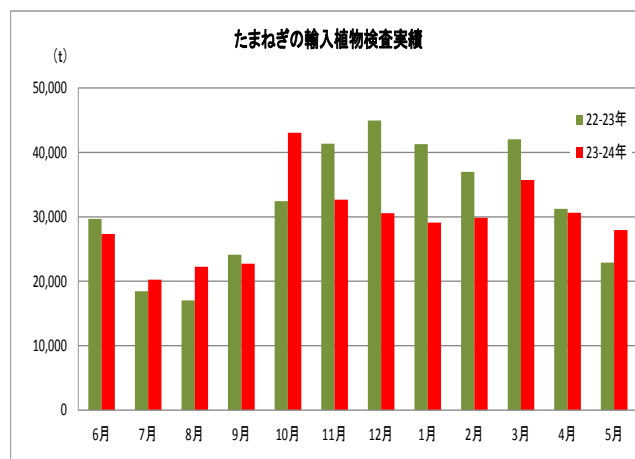
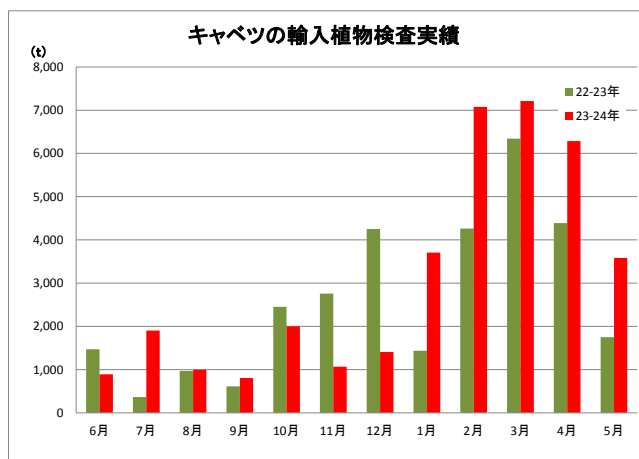
(5) 主要品目の植物防疫検査実績

キャベツの輸入検査実績は、12月までは毎月1～2千トンで推移していたが、1月以降は低温等による国内産の供給不足の影響を受け、3月まで増加した。4月以降は減少に転じたものの、前年を大きく上回る水準となっている。

たまねぎは、一昨年の国内産の不作を受け前年の輸入検査実績が多かったため、11月以降は5月を除き前年を下回った。

にんじんは、昨年の9月は前年を大幅に下回ったが、2月以降は、前年に近い水準で推移した。

レタスは、9月に降雨や台風による国内産の供給不足の影響を受け、前年を上回り、その後、12月までは、前年に近い水準で推移した。1月以降は、寒波等により国内産が不足したことを受け、前年を大幅に上回った。



※品目によって縦軸の数量の数値に大小があるのでご注意ください。

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」

原資料：農林水産省「植物検疫統計」